



2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えました

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます



合作：イラストコース4年 如月友里佳さん（神奈川県立白山高校出身）
引場早紀さん（東京都立工芸高校出身）

如月さん、引場さんによる二人展を開催
「グランギニョールの森」展

日程： 2012年7月13日（金）、14日（土）、20日（金）、21日（土）、27日（金）、28日（土）
時間： 12：00～19：00 会場：Galerie Or・Terre（ギャラリー オル・テール）

夏のオープンキャンパス＜開催日程＞

7月22日（日）、29日（日）、8月5日（日）、19日（日）

第2回エコバッグ展

第2回「エコバッグ展」(主催:宝塚大学、協力:小田急百貨店)が、小田急百貨店新宿店本館で開かれています(6月8日～22日)。

昨年は、“震災後の不安な日本を少しでも元気に”という主旨のもと、既製のエコバッグをキャンバスに、学生たちが思いおもいに顔を描いた「e顔バッグ展」のタイトルで開催しました。

今年の展示は、「わがままなエコバッグ達 EGO-BAG 展」と題し、イラストコースの学生たちが1枚のエコバッグを使って、立体造形物の作品を自由に制作しました。

会場では、学生たちによる似顔絵描きのチャリティーイベントを、土、日曜日ごとに開催し、訪れた人々から喜ばれています。似顔絵は、色紙や画用紙ではなく、エコバッグに直接描くという方法で、エコバッグ展の恒例企画としてすっかり定着しました。



展示作品 4年 新島加奈さん
(進修館高校出身)

北見隆教授

作品テーマは「エコロジー」と設定しましたが、バッグ自体はあくまでも素材にすぎません。中には原型をとどめず、バッグとしての機能を持たない作品も多々見受けられます。とにかく生真面目に考えてしまいがちな「エコ」ですが、作品を通して、見た人が積極的にエコを楽しむ気持ちになっていただけたら、と思っております。



人気の似顔絵描きコーナー



展示作品 (左から) 4年 貞松香澄さん<淑徳高校出身>、4年 高橋俊雅さん<立志舎高校出身>、
3年 今井ゆりさん<浦和学院高校出身>、3年 泉杏子さん<横浜山手女子高校出身>

森下さんが新人漫画賞で最終候補に

マンガコース4年生の森下史織さん(松戸市立松戸高校出身、ペンネーム:寿蜜蟲)の「灯屋」が、集英社発行のマンガ雑誌「週刊少年ジャンプ」が募集する「第57回 JUMP トレジャー新人漫画賞」で最終候補作品に選ばれました。

なお、森下さんの作品「灯屋」は、本学発行のマンガ雑誌「NEO Vol.3」に優秀作品として掲載されています(「NEO」はオープンキャンパス等で配布しています)。

■「灯屋」あらすじ

どんな難事件も解決するという、街でウワサの「灯屋」。今夜舞い込んできた事件とは一体!?

■JUMP トレジャー新人漫画賞

2007年7月から開催されている、「週刊少年ジャンプ」の月例新人漫画賞



最終候補作品に入った森下さんの作品「灯屋」

「NEO Vol.3」の表紙

八幡さんがコンクールで特別賞を受賞

マンガコース2年生の八幡英理子さん(千葉県立松戸高校出身)が、「第1回ガリバー旅行記はがき絵コンクール」で特別賞を受賞しました。

同コンクールは、横浜バロック関内サロン(横浜市中区)の主催で毎年開催されている「ガリバー展」に合わせて企画され、“ガリバー旅行記を読んで絵を描こう”というテーマで作品募集が行われました。たちばないさぎ講師の呼びかけに応じて、マンガコースの有志が参加し、八幡さんの作品は、選考委員による審査のうえ、応募総数約30作品の中から特別賞に選ばれました。

作品は5月23日(水)～27日(日)の期間、「ガリバー展」で展示され、「ガリバー旅行記」の中でガリバーが日本に上陸したとされる5月27日に表彰式が行われました。



特別賞を受賞した八幡さんの作品

■「ガリバー展」

「ガリバー旅行記」の作家スウィフト(アイルランド)にちなみ、アイルランドの子供たちの絵を展示。

■「ガリバー旅行記はがき絵コンクール」

応募期間：2012年4月1日～5月7日

選考会：2012年5月19日

選考員：

前田よし永(染色作家)

桐ヶ谷良之(よこすか未来塾ガリバー担当)

松田さゆり(アートディレクター)

菅沼恵(メイクアップアーティスト)

小笠原伸子(横浜バロック室内合奏団代表・バイオリニスト)



表彰状を受け取る八幡さん(右)

『少年サンデー』編集者講評会を開催

マンガコース主催の「編集者講評会」が、5月中旬に学内で行われました。

編集者講評会は、学生がプロのマンガ編集者から作品の講評を直接受けることができる場です。講評会の参加条件は、「完成原稿であること」「ふきだしの文字が読みやすいこと」「編集者に見られて恥ずかしくない水準の作品であること」などで、他コースの学生も参加することができます。



プロの編集者（右）に原稿をチェックされる学生（左）

今回の講評会には、マンガコースを中心に約 20 人の学生たちが参加。講師役に『週刊少年サンデー』（小学館）の編集者 2 名を招き、マンツーマン形式で行われました。

数々のプロの漫画家の作品を手がけている編集者が、どの場面で反応を示したかなど、指導を受ける学生は緊張の面持ちで、編集者の一挙手一投足を見逃さないように観察していました。また、編集者からのアドバイスを熱心に聞く者、積極的に自分の作品をアピールする者もあり、「貴重な場を少しでも活用したい」という意気込みが感じられる講評会となりました。

本学ではこれまでも「学生の作品制作のモチベーションの向上」を目的に、『ジャンプスクエア』（集英社）、『モーニング』（講談社）、『花とゆめ』（白泉社）、『月刊少年ガンガン』（スクウェア・エニックス）などの編集者を招いた講評会を、定期的に行っています。



編集者は細部に渡って目を通し、学生にアドバイスをします



原稿を再チェックする学生

教育懇談会を開催

保護者を対象とした教育懇談会が6月10日に学内で開催されました。第1部では、川村順一学部長が、コンテンツ業界の現状といま求められている人材、今年度からスタートした学部のカリキュラム改革について説明。また、就職支援室から昨年度の就職状況を踏まえたうえで、就職環境や各年次での就職サポートについて報告しました。第2部では各コースに分かれ、教授・講師が、学生たちの普段の様子や、授業カリキュラム、就職について具体例を挙げながら話し、保護者との貴重な意見交換の場を持ちました。

川村順一学部長

iPhone や Android スマートフォン、タブレット PC の登場が、コンテンツ業界を大きく変えようとしています。現在、従来からあるゲーム大手企業などは若い人たちの“アイデア”が不足しており、面白い企画を発想できる若い人材を求めているのです。ゲームだけでなく、マンガにもアニメにも、新しいコンテンツの表現が生まれ、求められるアイデアの質も量も劇的に増えています。このような変化に対応していけるよう、本年度から研究室制度を設けました。学生たちがコースを横断して参加できるもので、例えばイラストコースの学生がゲームやアニメの研究室に参加することも可能です。



川村順一学部長

新宿は周辺に多くの企業があり、産学連携の話など企業からの相談がよくあります。また新宿区の特命プロジェクトと連携して、新宿全体をアートの街にしようという取り組みも行っています。学生たちに様々なことを体験させ、自分の可能性を発見させる場を今後とも提供してまいります。



教育懇談会の様子

HOT TOPICS—⑥

【社会連携】

かまんど 鎌人いち場に参加

鎌倉海浜公園（鎌倉市由比ガ浜）で5月27日に開催されたイベント「第七回鎌人いち場」（主催：鎌人いち場実行委員会）に、学生有志が参加しました。

「鎌人いち場」は、誰でも気楽に参加できる横断的なコミュニティ「現代版市場」の復活を目的に、鎌倉NPOセンターの10周年記念事業として始まったイベントです。

当日は好天に恵まれ、会場は15,000人を超える来場者で賑わいました。本学からは、渡邊哲意准教授、鎌倉市の地域コミュニティ活動に興味のある学生らが参加し、ブースを出展しました。特に、学生たちが来場者の似顔絵を描き、その場で缶バッジを作成する「似顔絵缶バッジ」には多くのお客さんが集まり、好評を呼びました。



お客さんで賑わう宝塚ブース

参加者

坂口茜さん（イラスト4年、神奈川県立白山高校出身）、今川柚子さん（イラスト4年、神奈川県立岡津高校出身）、藤原瑞希さん（イラスト3年、宮城野高校出身）、河田佳美さん（ゲーム3年、浦和学院高校出身）、中里智美さん（大学院、東京成徳大学高校出身）、川口藍さん（マンガコース卒業生、北園高校出身）



学生たちが作成した「似顔絵缶バッジ」

■ かまんど 「鎌人いち場」

ホームページ：<http://kamandoichiba.com/>

つながる ひろがる！ コミュニティ・マーケット



【社会連携】

第 6 回農山村ふれあい市場に参加

新宿区の恒例行事「歌舞伎町農山村ふれあい市場」が6月3日に大久保公園で開催されました。有志の学生たちが「似顔絵描き」や「似顔絵缶バッジ作成」のチャリティー活動を行い、多くの区民などから喜ばれました。

「ふれあい市場」は、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちに再生する取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」の一環として、新宿区民と農山村との交流、地域振興、まちのにぎわいづくりを目的に2010年7月から定期的で開催されているイベントです。

6回目を迎えた今回は、福島県双葉郡の川内村観光協会や、福島県いわき市の食品会社、宮城県気仙沼市の酒販店など、震災の被災地や原発事故によって風評被害を受けている地域からの出店のほか、ジャズライブ、K-POPグループのライブなども行われ、たくさんの来場者がイベントを楽しみました。

本学は2011年9月に「歌舞伎町タウン・マネジメント（TMO）広報大使」に就任しました。今後ともTMOと協力し、歌舞伎町の魅力を広く発信していきます。



イベントに参加した
K-POPアーティストの似顔絵も制作



自分の似顔絵ができる過程を
目の前で見るができます



老若男女、国籍問わず、多くの方々の似顔絵を描きました

芦谷講師、大倉助教が日本映像学会で発表

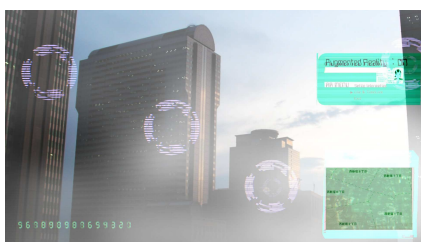
芦谷耕平講師（マンガ・アニメコース）と大倉有樹助教（ゲームコース）が、6月2、3日に九州大学大橋キャンパスで行われた日本映像学会第38回全国大会に参加し、研究発表を行いました。

今大会のテーマは、「映像の拡張性を考える—スマートフォンからソフトウェアアートまで」で、芦谷講師を始め参加者は、「映像の拡張性」をめぐり、表現者、技術の応用、映像受容の3つの立場を中心に議論を深めました。

■『among the Golden Mists』ストーリー

極東の島国を襲った未曾有の大災害。その被害は甚大なるも、更なる恐怖が人々を蝕んでいく。その目に見えない恐怖は、徐々に徐々に、人々の身体と精神を破壊していった。

ある憂国の、しかし傲慢な科学者たちは、せめて僅かばかりでも人心の救済をせんと、恐怖の可視化を試みた。



『among the Golden Mists』ビデオ作品（13分） ©Ashiya Kohei

芦谷耕平講師

芦谷講師の発表（一部抜粋）

不可視の可視化、それに伴う可視の不可視化、このパラドックスが、本作のテーマでもある。3.11から1年余を過ぎた先日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)はガンマ線を放出する放射性物質の分布を可視化する新しい装置「超広角コンプトンカメラ」を試作し、従来のガンマカメラに比べ格段に広い視野での放射性セシウム254の分布の高精度画像化に成功したという。今も遅々として収束の見込みが無い二次災害（というにはあまりにも深刻な）に苦しむ人々にとって、一筋の光明になってくれることを願って止まない。私が本作にてフィクション（寓話）で描こうと試みた世界は、現実世界ではすでに実現してしまっているともいえる。

本作中で人々が“黄金の霧”によって視界を奪われた後、第二の目として使用されるツールが、近年スマートフォンアプリや、アニメーション『電脳コイル』などでも注目された、拡張現実“AR”である。

不可視の可視化により、現実の“眼”を奪われ、テクノロジーに依る仮想の“眼”に依存せざるを余儀なくされる。

それは皮肉にも、効率を追求したテクノロジーの進化が人の手を必要としなくなったように、知覚し得ぬものを知覚したがゆえに方向を見失い、あらゆる地図が無効になってしまうように、その“界（ミリュー）”の中にいる人々にパラドックスを突きつける。

それは、果たして我々が真実に視ているもの、観たいと欲しているものは何なのかという問いを、我々は今一度、身を切り裂かれる想いと共に喉元へのナイフとして突き付けられている、という事実と同義なのだ。

＜芦谷耕平講師 プロフィール＞

日本大学芸術学部映画学科を卒業。在学中は月岡貞夫（アニメコース教授）に師事。卒業後は同学部副手を勤め、その後、株式会社ユビキタスエンターテインメントでデザイナーを務める傍ら、本学の講師として教鞭を執る。漫画家・映像作家・アニメーター・グラフィックデザイナーと様々な分野で活躍。



創立 25 周年記念式典

宝塚大学は5月23日に創立25周年を迎えました。5月20日には開学の地である宝塚キャンパス（兵庫県宝塚市）で記念式典を行い、創設時から今日まで本学をサポートしてくれた人々や、今回の記念事業に尽力した関係者、卒業生、名誉教授、教職員など約400人が参加して「4半世紀」を祝いました。

歌舞伎町クリスマスコンサートなど新宿区のイベントで新宿キャンパスとつながりのある「Rio&Syuga」が校歌を演奏。ピアニスト Rioさんと、バイオリニスト林周雅さんの息の合ったコンビが、25周年のメモリアルを彩りました。

崎田喜美枝理事長は、式辞で大学の建学の精神「芸術と科学の協調」について触れ、「芸術と看護を学ぶ大学として想像力豊かな人材を育てたい。そのために教職員と学生が一丸となって、3キャンパスの特色を生かしながら、さらなる発展をめざし努力してまいります」と述べました。

小清水漸学長は、「次の世代に託すべき25年に向けて、大学は自覚的に大きく反転しようとしています。宝塚・梅田・新宿を拠点に、芸術と看護の大学として大きな飛躍の反転角、“Turning Angle”の軌跡を描こうとしています」と挨拶。25周年のメイン事業である「船プロジェクト」についても説明しました。大阪湾に向かって、未来の船出を意味するこのプロジェクトは、宝塚キャンパスを舞台に学生と教職員が一丸となって約20mの巨大な船を創るものです。



「Rio&Syuga」による校歌演奏



崎田理事長の式辞



小清水学長の式辞

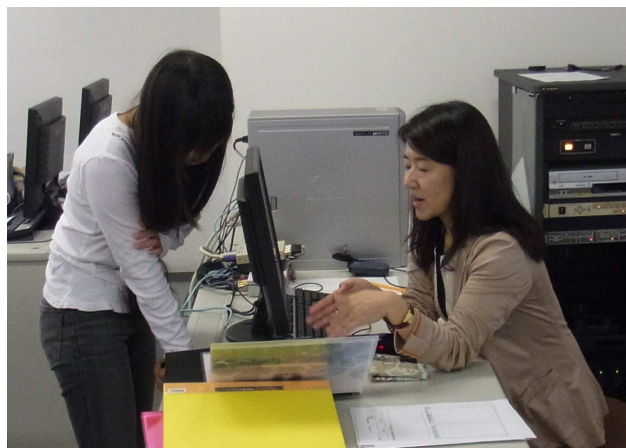
授業紹介

ポートフォリオ制作実習

〔受講学年：メディア・コンテンツ学科3年（選択課目）担当教員：中路真紀講師〕

「ポートフォリオ制作実習」は、自分の制作物をまとめた作品集「ポートフォリオ」のまとめ方について学び、就職活動用のポートフォリオを完成させる授業です。

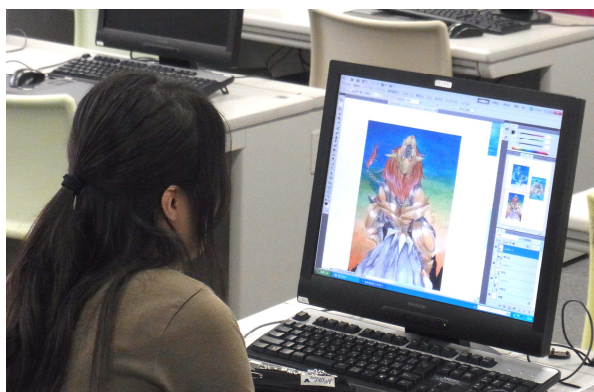
クリエイターを志望する学生にとって、ポートフォリオの制作は、就職活動やキャリアアップのために必要なスキルです。志望する仕事にマッチしたポートフォリオを戦略的にアピールできるかどうか、就職活動の成否に大きく関わります。そこで、学生のキャリア支援の一環として、「ポートフォリオ」について学べる授業を昨年度から開設しています。



学生の相談にアドバイスをする中路講師(右)

全15回の授業の前半では、「将来何をしたいか」「どのような職種に就きたいか」などの希望職種について検討・調査し、進路のビジョンを明確にします。次のステップでは、「ポートフォリオをつくる意味」を学ぶほか、「自分の目指す職種に就くにはどのような力が必要か」について分析。そのうえで、企業の人事担当者に対して、「その力が備わっている」という証明や、「まだ備わっていないがこの人は伸びそうだ」と思わせることのできる作品や素材を選び、最終的にポートフォリオの完成を目指します。

中路講師は、ポートフォリオに盛り込む内容について、「たとえばゲームの企画職を目指すには、企画力とマネジメント能力があることを証明しなければならない。そのためには、ポートフォリオには作品企画の発端となるアイデアと、ゲームに必要な要素（グラフィック、音楽など）を誰が担当するかまとめた『使用素材指示書』を盛り込むことが必要」と述べ、職種別にアピールポイントが異なること、それに応じた的確なデータを選んでまとめることの重要性を強調しました。



ポートフォリオに採用する作品を吟味



昨年受講した学生のポートフォリオでは、絵コンテや使用素材指示書、実際のゲーム画面などを使用

教員紹介

北見隆教授(イラストレーションコース)

社会に向けての作品づくり

— 「エコバッグ展」について

今年のエコバッグ展では、立体造形物としてのエコバッグを学生たちに作品化してもらいました。エコバッグを素材の一つとして考え、極端な話、カバンとしての機能を十分に持っていない作品もあります。真面目に考えてしまいがちな「エコ」ですが、出展されるエコバッグを見た人たちが楽しんで「エコ」に関心を持ってもらえればと思います。また「エコ」と「エゴ」をかけていますが、これは“環境問題は人間のエゴから生じたもの”という皮肉の意味も込めています。

今回、作品を白のみで統一するよう「縛り」を設けました。展示全体をイメージした時に、様々な色が主張し過ぎないようにしたかったということもありますが、限られた状況の中でモノを作ることが、クリエイターの仕事だという思いもありました。結果として、僕が想像した以上に学生たちは楽しんで課題に取り組み、バラエティーに富んだ作品が集まりました。



北見隆教授

— マンガとイラストの境界

5年ほど前は、マンガの一コマのような「コミックイラストは書かないで欲しい」と、学生たちに話したことがあります。最近では、コミックイラストに慣れたということもありますが、それが時代の一つの風潮でもあると思うようになりました。大学にはマンガ、アニメのコースもありますので、コミックイラストを描きたいという学生が多いこともあります。しかし、コミックイラストは個性の違いが分かりにくいというえ、上手い下手が表れやすいもの、基礎となるデッサン力は必要となります。また、マンガ、イラストに限らず、どのような絵でも、作品を社会に向けて発表（表現）するという点は同じであって、作品の使い方や社会との関わり方について学生たちには意識して欲しいのです。コミックイラストを出発点としても、最終的には自分のイラストなりアートなりを確立すればいいと思います。つまり、コミックの匂いがあっても、個性と美意識のある作品ですね。

— 宝塚大学を志望する高校生へ

絵の上手い、下手は関係ありません。黙っていればいつまでも絵を描き続けているような、とにかく絵を描くことが好きな学生は指導のしがいがあります。なぜ自分は絵を描くのか、その自覚と気持ちの両方がある学生をぜひお待ちしております。イラストは上手い下手というよりは、良い悪い、好き嫌いの世界です。楽しんで描いた作品が、見る人を楽しくさせます。

<北見隆教授 プロフィール>

武蔵野美術大学商業デザイン科卒。イラストレーター。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』などの作品で知られる。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動。受賞歴は「第13回サンリオ美術賞」、「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のリンゴ賞」など。現在、『美術の窓』（生活の友社）2012年6月号、7月号で技法講座「アクリル絵具で描く古典的表現」を連載。<展覧会情報>「美の方舟」北見隆・長谷川健司・舟山一男 3人展 7/23（月）～8/3（金） あらかわ画廊（京橋）

学生紹介

イラストレーションコース 2 年

藤代実咲さん（東京都立晴海総合高校出身）

大きなキャンパスに思うがまま描きたい

— 「フェティシズム展」の開催

「フェティシズム展」は、イラストコースの 2 年生が主体となって 4 月中旬から 1 ヶ月間、学内で開催しました。他の学年やコースも含め、多くの方々に私たちがこの一年間で学んだ成果を見て欲しいと思い企画しました。北見教授から、「学内の研究室を小さな展示室として利用して構わない」というお話があったことがきっかけです。『フェティシズム』（特定なものへの執着心）というテーマが決まったのは春休みに入る少し前でした。一年次での課題も終盤に差しかかる頃でしたが、せっかくなら変わったテーマを扱おうということになり、皆でいくつか案を出し多数決で決めました。出品者それぞれの執着や愛好、こだわりなど、趣向を凝らした私たちなりの“フェティシズム”が表現できたと思います。



藤代実咲さん

— 北見教授の印象

高校生の頃、大学のオープンキャンパスに来て北見先生のことを知りました。私は美術の予備校に通っていなかったので、北見先生のような方に一から教えていただけることにモチベーションが上がりました。現役で活躍されているアーティストでいらっしゃるの、授業を受けていると、北見先生が見ているものは私たちとは違うなと思う瞬間があります。先生独特のフィルターを通して物事を見ているような感じを受けます。北見先生の他にも著名な先生が多く、一般人であれば菓子折りのひとつでも持って行き、時間を取ってもらおうような方々に、身近で教えてもらったり、絵のアドバイスをもらったりすることのできる距離の近さは貴重です。

— 描きたいもの

私は写実的な絵が好きです。一番影響を受けているのはベクシンスキーというポーランドの画家です。ベクシンスキーの絵は独特の世界観があって、実際にはありえない世界を写実的に表現しているところに惹かれます。時間があれば、誰の評価も気にせず大きなキャンパスで絵を描いてみたい。何も考えず、無我夢中に。そういう時が楽しく、充実した絵が描けます。将来、自分がなりたい職業はまだ見つかっていませんが、好きな分野に進み、食べていくことができたらと考えています。今は自分の好みを探す時期と捉え、進んでいった先にどのような職業があるかを模索しています。

学生紹介

ゲームコース 2年

石川雄仁さん（渋谷教育学園渋谷高校出身）

人と知り合って価値観の幅を広げる

この夏に行われる「新宿クリエイターズ・フェスタ 2012」の企画の一つに、学生が主体となりアート作品の制作・展示、音楽ライブ、ファッションショーなどのイベントを行う「学生万博」があります。私は企画委員として、大久保公園で行うイベントの企画・運営を、先輩の坂口茜さん（イラスト 4年、神奈川県立白山高校出身）と一緒に担当しています。毎週打ち合わせがあり、とても忙しいのですが、普通の大学生活を送っていたら経験できないであろうことが多く、楽しみながら取り組んでいます。また企画書作成などの仕事も担当させてもらっており、将来はゲームのプロデューサーや企画職に就きたい私としてはとてもためになります。



「学生万博」について語る石川さん

— 多くの人を巻き込む

「学生万博」企画委員には他大学の学生たちも参加しています。意見がまとまらないこともあります。芸術系の大学ではない一般の大学生の価値観を知ることができて面白いです。このイベントを通じていろいろな人と知り合い、一度自分の価値観を壊し、新たに価値観の幅を広げることができればと思います。どうすればイベントに多くの人に参加してくれるのか、どのようにしてイベントの出展者同士がつながりを広げていけるのかなど課題はまだありますが、多くの人を巻き込んでいきたいと思っています。私が担当する大久保公園エリアのイメージキャラクターを学内で募集したところ、すぐに10作品以上が集まりました。少しずつですが、つながりが広がっていることを実感しています。

— 大学生活について

大学ではマンガ、アニメ、イラストなどのコンテンツだけでなく、企画、プロデュースに関わる全てのことを学ぶことができます。やりたいことが明確な学生が集まっているので、企画を出すと参加してくれる仲間が多くいます。その中で、伝えたいことをいかに相手に伝えるか、皆が楽しく作業できるための環境づくりなど、コミュニケーション能力が自然と培われていくと思います。

— 進路に悩む高校生へ

とにかく、止まらないで動き続けることが大事。もがいていれば誰かが必ず助けてくれます。「自分にはできないから」と怖がって動かないのではなく、「できないけど動く」という姿勢で、何事にもチャレンジして欲しいです。

今後の予定

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時： 6月24日（日） 13：00～16：30

内 容： 学校紹介、入試説明、特別講義、コース紹介、相談コーナー、作品展示など



オープンキャンパス特設サイトを公開中です

<http://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/opencampus/>

【6月24日(日)実施の特別講義内容】

- ・マ ン ガ：つけペンを使ってみよう
- ・イラストレーション：
イメージの翼を広げよう／キャラクターデザイン入門
- ・ゲ ー ム：パズルゲームアプリをつくろう！
- ・アニメーション：キャラクターを描く

【今後のオープンキャンパス実施予定】

開催日	時間
7月22日(日)	10:00～16:30
7月29日(日)	10:00～16:30
8月5日(日)	10:00～16:30
8月19日(日)	10:00～16:30
9月9日(日)	13:00～16:30
10月27日(土)	13:00～16:30
11月10日(土)	13:00～16:30
12月15日(土)	13:00～16:30
2013年2月2日(土)	13:00～16:30

【夏のオープンキャンパス】

7月22日（日）、29日（日）、8月5日（日）、19日（日）の4日間は、「夏のオープンキャンパス」を開催。通常のオープンキャンパスのメニューのほか、特別イベントの実施も予定しています。

【特別講義テーマ（一部）】

- ・アニメ：煙を描く、パラパラアニメで動きをつくる など
- ・マンガ：マンガの専門道具で美少年を描こう、漫画背景の描き方 など
- ・ゲーム：オリジナルペイントのセスナを飛ばそう、目指せアプリコンテンツプランナー など
- ・イラスト：ブックジャケット入門、パソコンで描くイラストレーション など

■ 如月さん、引場さんによる二人展「グランギニョールの森」展

日程： 2012年7月13日（金）、14日（土）、20日（金）、
21日（土）、27日（金）、28日（土）

時間： 12：00～19：00

会場： Galerie Or・Terre(ギャラリー オル・テール)
中央区京橋 1-6-10 春本ビル B1

内容： イラストコース4年の如月友里佳さん、引場早紀さんによる二人展を開催。北見隆教授、高田美苗講師の作品も展示予定（参助展示）



【会場アクセス】



www.takara-univ.ac.jp

東京 新宿キャンパス

東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL.03-3367-3411 FAX.03-3367-6761
[E-mail] tokyo@takara-univ.ac.jp



■ 周辺マップ



4

<宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>
宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室
担当:金澤、山本 TEL:03-3367-3411
<ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>
宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社
担当:江頭、高橋 TEL:03-3571-5228